

方剂名	効能	生薬組成
書籍	主治および証	病機 方意
治風剂 疏散外風剂 10		
<p>あずそういっぽう 治頭瘡 一方</p>	<p>疏風活血・清熱解毒・祛湿</p>	<p>連翹・蒼朮・川芎各3g・防風・忍冬藤各2g・荊芥・生甘草・紅花各1g・ 大黃0.5g 水煎し服用する。</p>
<p>日本経験方</p>	<p><主治> 久瘡（風湿熱毒付着血分） 慢性に経過する全身の癢痒、発赤、化膿、滲出、痂皮形成などを呈す。</p> <p><病機> 風湿熱毒の邪が深く入って血分に付着し、内に排せ路がないために三焦を通じて邪が外犯し皮膚面に病変が現われるが、邪が深部に付着して去らないために皮疹が慢性に反復して発生する。 癢痒、皮疹の出没、頭面部主体の皮疹などは風邪を、発赤、つよい癢痒、化膿などは熱毒を、滲出、びらん、落屑などは湿邪を、夜間に癢痒が増悪、掻破すると出血して痂皮を形成するなどは血分の病変を、それぞれ示している。</p> <p><方意> 祛風、清熱、解毒、祛湿と活血化瘀を配合し、血分の風湿熱毒の邪を除く。 祛風の荊芥・防風は留着した風邪を散じ、散風燥湿の蒼朮は、祛風化湿の防風と共に内外の湿邪を除く。辛温の川芎は血中の気薬で、活血すると同時に、肝の疏泄を促して散風を補助し、入血散風の荊芥と血中の風邪を除く。清熱解毒の連翹・忍冬藤・生甘草は、清熱涼血、活血散瘀の大黃と血中の熱毒を清除する。活血化瘀の紅花は活血の川芎・大黃と共同して血滯を除き、邪が血分に留着するのを防ぐ。辛散上昇の川芎と寒涼下降の大黃を配合すると、昇降、寒熱が調和し、辛散透達すると同時に涼血散瘀でき、昇陽助火、寒涼下行の弊害がない。</p> <p><参考> 本方（治頭瘡一方）は、血分に風湿熱毒の邪が留着した皮疹に広く用いることができ、<勿語方誦口訣>は「この方は頭瘡のみならず、すべて上部頭面の発瘡に用ゆ。清上防風湯は清熱を主とし、この方（治頭瘡一方）は解毒を主とするなり」と指摘している。</p> <p>加減法 下部の病変には、川芎を減量して大黃を増量する。 発赤、化膿などが明らかなら、山梔子・黄連・黄芩などを加える。 血燥による皮膚の乾燥が顕著であれば、何首烏・当帰などを加える。 滲出が甚だしければ、茅根・薏苡仁・滑石などを加える。</p> <p>日本での保険適応効能、効果 湿疹、くさ、乳幼児の湿疹</p>	